

## シリーズ事業所紹介 共立歯科センター

開設からもうすぐ50年目

# 日本有数の大型歯科診療所

一般歯科、小児歯科、歯科口腔外科、障害者歯科、有病者歯科、無料低額診療を担う

## 摂食嚥下サポートへ医・歯・介護連携を推進

臨床研修施設として  
研修医の受け入れも

共立歯科センターは、公益社団法人山梨勤労者医療協会の歯科診療所の中で最大の事業所です。1974年に歯科医師13人・ユニット15台で開設されました。いつでも、誰でも、安心・安全の医療活動を行い、一貫して「貧富の差によって命が差別されてはならない」を念頭に歯科医療を続けてきました。地域住民の期待に応えつつ拡大を行い、1998年に現在の勤医協ビルの場所に移転しました。

### 専門医による難症例への対応

無料低額診療事業にも取り組む

現在では、歯科ユニット 20台の診療室に歯科医師9人、歯科衛生士12人、歯科技工士5人、事務6人が所属する日本でも有数の大型歯科診療所になりました。

前身の病院歯科・歯科診療所の時代を含めると開設からもうすぐ50年目となります。



共立歯科センターでの診療の様子

口腔外科の他、障がい者（児）歯科、有病者歯科、訪問歯科も担っています。静脈内鎮静下での治療は他の院所では行えないため全県から紹介・受診があります。歯科口腔外科ではインプラント治療をはじめ、口腔外科の専門医による難症例の抜歯や粘膜疾患などの対応も行っています。

訪問診療では、隣接する甲府共立病院病棟へ積極的

2006年度から始まった歯科医師臨床研修プログラムにも参加し、2010年度より単独型臨床研修施設として研修医を受け入れています。2014年度からは山梨大学医学部附属病院の協力型臨床研修施設として山梨大学の研修医も受

### 歯科医師臨床研修プログラムに参加 大学の研修医も受け入れる

2006年度から始まった歯科医師臨床研修プログラムにも参加し、2010年度より単独型臨床研修施設として研修医を受け入れています。2014年度からは山梨大学医学部附属病院の協力型臨床研修施設として山梨大学の研修医も受

### 高度なチーム医療提供へ 歯科衛生士の確保・育成が課題

歯科医療が治療から予防へと変化していく中で、歯科衛生士の人員が不足する

高齢社会の中での病棟・施設・在宅での口腔ケア推進、収益増のポイントとなるSPT（歯周病安定期治療）等、それらを担う歯科衛生士の確保は重要な課題です。

### 歯科技工物の内部委託・受託を可能に 歯科技工士の確保・育成が課題

併設する歯科技工所は、2014年に歯科技工所開設登録を行いました。それまでは事業所によって機器や職員数が異なるため外注委託を余儀なくされる状況でありましたが、これにより同じ協会内での歯科技工物の内部委託・受託を行うことが可能となりました。

2019年度には、CAM/D/CAMシステム（コンピュータによる設計、製造支援）を導入し、補綴物の一定水準確保に大きく役立っています。

### 「最期まで自分の口で食べる」を支援 摂食嚥下障害支援の協働・連携を追求

「歯科中長期計画」における新たな取り組みとして、今年度4月より、歯科群で新たに「摂食嚥下障害」への取り組みを開始しました。これは、「最期まで自分の口から食べる楽しみ」を実現することを目標としたものです。

「食べること」は、自立した豊かな生活を送るために人として最も基本的な機能です。しかし、誰もが最期まで自分の口から食べ続けられるわけではありません。口の専門の歯科として「最期まで自分の口から食べる楽しみ」を支援することを、重要な課題として取り組みます。そのため歯科群として、専門医の先生や認定士の先生を医医連外から呼びこみ、取り組みを組織する専門委員会を立ち上

医療・歯科・介護の連携を図りながら、多職種で摂食嚥下患者をサポートする体制構築が重要となります。摂食嚥下に対する知識・経験を強化し、摂食嚥下障害に対する協働・連携を実現していきたいと考えています。

（共立歯科センター

事務長 熊谷太一）